

会議等結果報告書			
会議区分	会議・打合せ・協議	文書番号	189
		決裁期日	平成30年8月29日
名称	第2回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日時	平成30年8月28日(火) 午後7時00分～午後9時05分		
場所	役場3階 第3会議室		
出席者	協働のまちづくり推進委員9人(別紙名簿のとおり) 事務局：町民生活課 北越課長、自治推進班 床鍋主幹 合計11人		

**[進行：事務局（町民生活課長）]**

◎ **会長あいさつ**

今回、第2回目の会議となる。皆さんから意見をいただき、意見に対する情報交換や今後の協議事項を決めていきたいので、よろしく願います。

**[進行：持安会長]**

**1 議題**

**(1) 上富良野町協働のまちづくり推進補助金について**

- ① 上富良野町協働のまちづくり推進委員会設置要綱
- ② 平成30年度の利用状況について

前回の会議で、協働のまちづくり推進補助金交付要綱に係る資料を求められていたことから、今回、要綱をはじめ、要綱の取扱いやQ&A等の資料を事前配布し、事務局（床鍋主幹）より資料1-1から1-4まで説明。併せて、平成30年度の補助金の利用状況について、利用団体の増から予算が不足し、9月定例議会で補正予算の計上をしていることを説明した。

持安会長：前回の会議で、見直しの意見が出ていたが、このままでいいのではないかと。

菊池委員：住民会の役員からは使い勝手がいいと聞いており、このままで問題ないと思う。

**(2) 今年度の協議事項について**

持安会長：今年度の協議事項について決めていきたいと考えるが、皆さんの意見はどうか。

柴田委員：協働のまちづくり基本方針策定後、しばらく見直していないので、その見直しをしてはどうか。

田中委員：その見直しは、折に触れできると思うので、しなくてもいいのではないかと。

以前の住民自治活動奨励補助事業補助金では、対象者に「住民会」と明記されていたが、協働のまちづくり推進補助金には「町内に活動拠点を有した3人以上の

団体」としか記載されておらず、住民会を明記すべきでないか。また、協働のまちづくり推進補助金で、町外で行うものは補助対象外（研修会等の参加除く）となっているが、対象事業に見直すことが必要でないか。

床鍋主幹：2年前のこの会議の中で、補助金を統合するに当たり、対象者の範囲を広げ、補助金を使いやすくするため、補助対象はこのような表記になっている。補助金の見直しは、前期委員が1年間かけて見直ししたものであり、昨年度開始から1年経過したが、利用した団体からも使いにくい等の意見はいただいていない。検証は常に必要である。

持安会長：見直すところもあるかと思うが、今後検討していく。

谷江委員：自治基本条例の目的と理念にあるようなまちづくりができればいいと思っている。多くの方が参加できるようにするため、まちづくりの成功事例と失敗事例を協議してはどうか。内閣府のホームページで、地域活性化伝道師派遣制度を知ったが、まちづくりだけで意見してくれる人が多くいる。観光や農村など広い視野で登録されている。委員の任期が2年あるので、何かできないか。ファシリテーションの研修を行ったが、住民と町をつなげていくようなことをしたい。多くの人が集まれば、意見をもらえるのでないか。どうすればいいかを話し合っていきたい。

菊池委員：これまで大学の先生等の話を聞いたが、聞くだけではだめだと思う。自分たちがどうしたいか、自分たちの町という覚悟がないと、町は変わらない。大学の先生等は上富良野町に住んでいるわけでなく、責任もない。基本は住民が考えていく。

谷江委員：町の人たちと話し合う場、一方的でなく、皆さんの話を聞きたい。そのために、ファシリテーションを駆使していくことはどうか。

松藤委員：大学の先生等呼んで意見を聞いても限定的であり、まずは意味があるかどうかわからなくても、何かをやることだと思う。

谷江委員：先生等呼んで意見を聞くのは自分たち委員だけでいい。どうしたら、人を集めていけるのかを聞くことが必要と考える。

井上委員：まちづくりは、若い人がいなければ活気が出ない。上高生と活動しているが、若い人がいる場には高齢者も入ってきて意見を言う。昨年、富良野で会議があったが、意見を言っても、まとめないというものだった。子どもも意見を言っていて、即効性はないかもしれないが、そういう子どもたちが将来町内会に入ろうと思うことにつながるのではないか。

谷江委員：それもファシリテーションを取り入れているものだと思う。そのように、変えていきたい。

森本委員：人が変わらないと町も変わらない。世代を超えてということも必要と思う。町に住んでいても、この町のことをよく知らない人もいる。かみふらの八景がどこかも知っているのか。駅で、開基120年記念のDVDが流れていたが、もっとみんなに配布してはどうか。

水島委員：この町に長く住んでいる人は当たり前に見えていることが、転入者等から見ると美しいと感じているようである。長く住んでいるとわからない。転入後、すぐにこういう委員会等に参加する人に感心する。新鮮な意見を聞くことで、みんな感じることもあるのだと思う。大学の先生等は、理想で物事を進めている気がする。

田中委員：泥流地帯の映画化について、なぜ進めるのかわからないという意見もあるが、自

分たちは残したいと思う。ただ、その経過が見えてこないし、先も見えていないのでは、うまくいかないのではと思う。町がやることに乗っていけない。お金をかけて、元が取れるのか。

菊池委員：映画化を進める会の一員であるが、映画の製作費は企業版ふるさと納税等で集めて賄う。脚本等もできておらず、決まっていないことが多いから、知らせることもできないのではないか。今後、ホームページ等で全国発信していく予定である。

谷江委員：映画化に向けたシンポジウムの朗読会が素晴らしかった。映画もいいが、朗読会を観光客に見せてはどうか。

井上委員：上高生も先月の学校祭で泥流地帯の朗読劇を行ったが、とても良かった。

谷江委員：富良野グループの朗読会だと費用はいくらかかるのか。映画でなく、朗読会でも十分伝わるのではないか。

持安会長：ここまでの話をまとめると、世代を超えてまちづくりを話し合う場が必要であるとのことだが、それを設けるためにどうすればいいのか。大勢の町民が参画し、自分たちのものとしてとらえていくものという意見が出ている。世代を超えて集まり、そこから生み出したものを行動で示し、一つのものとして特化していく。

菊池委員：町がこうするという意見や思いが伝わらないとどうしようもできない。町が何をしたいかが基本になる。町から「こういう町にしたいからこうしてほしい」というのがあってもいい。

柴田委員：それは協働ということとは違うのではないか。

持安会長：泥流地帯映画化やジオパークについて、その説明は聞いても、なぜ今かというのが見えない。その事業のほかにも、喫緊の課題がある。説明がないから、それらに乗れない。気持ちも盛り上がらない。ジオにしても、認定を受けなかった理由を検証して、町民に返していくことが必要でないか。それがなければ、まちづくりにどう参画していくか、わからなくなる。

菊池委員：映画化にしても町は努力しているが、それを知らせていない。努力しているのは一部の人で、町民は置いてきぼりである。そうならないように進めていきたい。

柴田委員：映画化とジオの話でいえば、どちらも賛成である。これらをまちづくりの一部として取り込んでいくことは必要だが、この2つに固執すると全体のまちづくりになっていかない。今までこうだったからでなく、これからどうしていくかを考えていくのがこの委員会だと思う。

持安会長：議会・行政・町民が参画していくにはどうしたらいいか、意識が上がるようなスキルを持つことが大事だと思うが、どう得て、どう生かすのか。

森本委員：文化連盟では映画化に向けて何ができるか考えている。炊き出しができることは話しており、話は聞いてなくても、協力に向けての心構えはできている。

田中委員：映画化を例にして言うと、みんなが参加して意見を言えるような場をどうすれば作れるのか、この会で話していくのはどうか。

谷江委員：何をしても、上から言われてだと盛り上がらない。多くの町民が話し合うことで、意見が出て、自主性につながって盛り上がるのではないか。

水島委員：全町民対象は難しくても、住民会等にも、町が今後何をするか前触れのようなことをしておけば、関心が出てくるのではないか。泥流地帯の紙芝居はよかったので、自分の住民会でも見る機会を作りたいと考えている。

持安委員：町民が集まる場を作っていく。

井上委員：野山人等を通じ、人と知り合えたことが良かったと思う。人とのつながりの中で、「上富はおもしろい」と言われる。

谷江委員：上富の観光ではお金が落ちるところはあるのに、通過の町になっている。

柴田委員：いいところを広める機会をどう作るかだと思う。

持安会長：自分たちが知識を得て、スキルアップを図る必要がある。

森本委員：ジオパークにしても、最初はわからなくても、役場の努力もあって少しずつわかっていった。ただ、ジオパークという言葉は浸透したが、もう一歩だと思う。どんなことでも、何か柱を決めて、そこに向かわないと進まない。

菊池委員：上士幌町等にジオの勉強に行って話を聞いたが、費用がかかることからやらないなど、色々な話を聞いてきた。町は何のためにジオをするのか。映画化には力を入れたい。

持安会長：参画してもらおうための場を作るにしても、その方法がわからない。自分たちがスキルアップして、行動して、まちづくりを進めたい。

菊池委員：自分たちは、これまで色々なところで知識を得てきている。企業版ふるさと納税では、地方創生ということばも聞くが、一般的にはわからないと思う。別のことばを使うなど、役場が色々と考えないとだめだと思う。役場が何をしたいかも言っていて欲しい。こちらから言っても仕方ない。町から言われたことについて考える。

北越課長：自治基本条例の解説書を見ていただき、まちづくりの基本原則を見ると、大事なものは情報共有である。町としては情報を出しているが、それが伝わっていない。共有・参画・協働のサイクルを実践していくことが大事である。映画化についても、決まっていない部分が多いので出せていない。情報として、今のところ少ないということもある。泥流地帯映画化にしても、映画化に関われば理解も深まると考えるので、今回は担当者に説明してもらい、情報共有していく。

持安会長：情報の共有ということは難しい。情報を流しているというが、わからない。三者で語り合い、映画に特化した会合はどうか。ジオパークは、ジオパーク専門員等に多額の費用を投入しているが、必要性はどうか。なぜ、選定されなかったのかとその後はどう進んでいるのか、説明してもらいたい。

田中委員：映画化やジオということだけでなく、町の話聞いて、色々協力していきたい。

森本委員：映画化やジオに決めつけることはせず、広い意味で話して欲しい。

持安会長：以上とする。

## 2 その他

### 次回会議について

次回会議は、10月23日（火）19時から 役場3階第3会議室で行う。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】